

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600027
法人名	株式会社フォースコーポレーション
事業所名	グループホームゆうなぎ
所在地	愛媛県喜多郡内子町城廻613-1番地
自己評価作成日	平成27年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 10 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくりと過ごせる時間を大切にしています。 主治医、看護師との連携を図り、健康管理面には十分配慮しております。 サロンとの交流や保育所との交流ができるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は元学生寮を改修して使用しており、外壁は桜色に塗り替えられ明るい雰囲気である。居室は全室南向きで明るく広々としている。職員は利用者一人ひとりに寄り添い、ゆっくりと話を聞くよう努めており利用者を尊重したケアが行われている。職員全員が同じ目標を持ち、チームワークを大切にしながら利用者により良いケアを提供したいと考え、実践している。事業所での看取りを希望する家族が増え、要望に応えるため協力医と24時間医療体制を整え積極的に取り組もうとしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ゆうなぎ

(ユニット名) 南棟

記入者(管理者)

氏 名 平谷 稔

評価完了日 平成 27年 9月 9日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は目につくところに掲示をしている。再確認をしながら実践をしている。	
			(外部評価) 昨年管理者の交代があったのを期に、開設して7年で理念の見直しを行った。職員全員にアンケートを取ったが、内容的に同じであったため開設以来の理念「笑顔でおだやかにくらし」を継承することにした。初心にもどり、利用者のペースに合わせて話しに耳を傾けることを大切にして、実践につなげている。また職員は個人目標を掲げ、サービスの質の向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事は出来るだけ参加をしている。サロン交流、保育所の交流やボランティアとの交流を行っている。	
			(外部評価) 隣にあった保育所が移転したため、園児たちのにぎやかな声を聞けなくなったが、今まで同様に行き来があり、園児たちとのふれ合いは継続できている。秋祭りには玄関先に神輿が来てくれ見ることができた。数年前から企業のサッカーチームがボランティアで外回りの掃除に来てくれたり、職員も地区の掃除に参加したりと地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 町内のグループホームと連携をし、年に1度認知症講演会を行い、講評を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を行い、利用者の状況、現状を報告している。 認知症講演会、ゆうなぎ行事や避難訓練、救命講習会、自己 評価の結果報告を行っている。	
			(外部評価) 家族代表や元家族、役場職員、民生委員、保育園長等の参加 があり、事業所の報告や意見交換がされている。6月には認 知症講演会を開催し、地域住民が多数参加して好評であっ た。開設以来、毎年ゆうなぎ祭りが行われていたが、今回運 営推進会議で隔年で開催してはどうかと意見が出たため、今 年は見合わせる事となった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 推進会議、内子町グループホーム連絡会に参加して頂いてい る。介護相談員派遣事業にて利用者との話をさせていただい ている。	
			(外部評価) 町担当者は運営推進会議に参加して、事業所の状況を把握し たり、介護保険改正について丁寧な説明をしてくれている。 内子町グループホーム連絡会にも毎回参加して情報交換がで きており、介護保険更新時や新規の介護計画提出時において も連携が取れている。また、地域包括支援センターには利用 料負担の相談をするなど協力関係を築いている。半年に1回 介護相談員の訪問があり、利用者の話しや表情をしっかり見 てもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者の方が自由に生活できるよう環境を整えている。新人 スタッフが多いため、職員会、カンファレンス等で話し合 いをし、勉強会を今後も行っていきたい。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて職員会において注意喚起し、 意識づけを行っている。入所当初毎日「帰りたい」と玄関ま で行っていた利用者も、職員と一緒に歩き気長く穏やかに接 することで、現在は落ち着いて過ごすことができている。言 葉の拘束にも注意をはらい、利用者の尊厳を大切にしてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入居者に対しての言葉遣いや接し方について話し合いを行っている。小さな内出血、アザなど、ヒヤリハットを提出し、カンファレンス等にて全員で話し合いをし改善につなげている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 新人スタッフが増えたため、再度勉強をしていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が、契約時には契約書の説明を行っている。利用者、家族の思いを聴いたうえ、事業所のケアに関する事、利用料金、起こりうるリスク、看取りに関する事、医療連携体制についても説明を行い、同意を得ている。 今後、職員も説明ができるようにしていきたい。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会や家族との交流がある時に意見・要望を聴いている。 (外部評価) 面会時に利用者の状況を職員が伝えて会話する機会を持ち意見を聞くよう努めている。毎月、事業所便りを送付し生活状況を知らせることで、遠方の家族からは感謝の言葉が返ってくることもある。「自分たちでは看れないので有難い。」と思う反面、認知症が進んでいくことについて、家族が受容できないという心境を打ち明けられることもある。家族の辛い心理を理解しながら、利用者はもちろん家族のフォローも大切な支援と考えている。 また、年に1回家族会を行い、家族から意見を聞く場を設けてサービスの向上につなげている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 主任、管理者が話を聞き、代表者に伝えている。改善できるところはしていただいているが、要望が反映されていないこともある。 (外部評価) 職員会議やユニット毎の会議が毎月行われている。代表も週に1回は事業所を訪れ、職員と意見交換している。また管理者と職員は気軽に話しができる関係で意見や提案がよく出ている。職員の意見で玄関先にジュースの自販機を設置し、隣接する施設の利用者や神社を訪れる住民が通りすがりに利用して挨拶を交わすようになった。事業所は元学生寮であったため広く、現在ナースコールの受信機が1か所にしかなく不便であるため、各階に取り付けてほしいという意見が出て検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者の訪問はあるが、話す機会があまりない。現場の状況や職員の努力等把握できていない。人員の余裕がないため、希望休や時間外の支給はあるが、有給や休憩は十分に取れていない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 皆が研修会に参加出来るよう努力はしているが、人員が少なく余裕がない為、十分研修会に参加できていない。資格取得のための支援をしている。今後、レベルに合わせた勉強会を行いたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者は同業者とのネットワークはあると思うが、職員は同業者と係る機会がほとんど無い。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、自宅、病院等に事前調査に行き、面接を行っている。本人の生活状況、身体状況、服薬、家族関係などを聴きとり、出来る範囲で情報を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にはアセスメントを渡し、記入できる所はご家族にして頂いている。記入できないご家族には、聞き取りを行い、家族の要望を聴き、職員にも情報を伝え、事前に話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の思いを十分に聴き、居宅のケアマネからの情報提供頂き、必要なサービスに繋げている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 話を聞こうとしているが、仕事優先になってしまう時もあり、利用者のペース・状態に合わせ、出来る事、好きなこと、馴染みの生活等を把握しながら関わりを持つようにしていきたい。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、居室や別室でゆっくりお話しできるようにしたり、行事への呼びかけ、本人の状況を伝えたり、介護記録を見て頂いている。毎月お便りを書き、状況をお伝えしている。受診時には結果を報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 親戚、知人の面会や電話など、自由に出来るようにしている。馴染みの美容室に行かれたり、家族との外出、自宅に帰り過ごされる方もいらっしゃる。 (外部評価) 利用者は移転した保育園の誕生会に毎月招かれて、園児と一緒に祝ってもらい喜びを感じている。知人の面会が頻回にある利用者や、行きつけの美容室に行く利用者もいる。家族の協力のもと定期的に外泊する利用者もいる。併設のデイサービスからレクリエーションの誘いがあり新たな馴染みの関係もできている。保育園跡に障害者支援施設が入ったため、交流を持ちたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の顔なじみの関係は出来ており、助け合いながら仲良く自由に過ごされている。個人の性格を考慮し、気の合う利用者同士で過ごせる場面作りをし、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談があれば家族に連絡している。推進委員の協力をお願いし、継続して参加して頂ける方もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃のケアの中で本人の思いを知ろうとしている。意思疎通困難な場合は、家族の意見を取り入れている。センター方式の「私の姿と気持ちシート」を利用し、本人の思い、不安、苦痛、願い事をききとりを行っている。 (外部評価) センター方式を活用して利用者を理解するよう努めているが十分ではなく、日常生活の中で会話を多く持つようにして利用者の思いや意向を聞くよう努めている。会話が難しい利用者には筆談でコミュニケーションを図ったり、表情などを見逃さないように利用者に寄り添ってケアを行っている。	職員が入れ代わったことや利用者の重度化が進んでいくなかで、利用者の思いを把握することが困難になってきている。利用者の日常生活のなかでつぶやく言葉を大切に受け止め、その背景にある思いを洞察してケアに生かしていくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に本人の思いや生活状況を家族に聴いたり、ケアマネより情報収集している。生活の流れをそのまま支援できるように取り組む努力をしている。自分の今までの馴染みの物は自由に持ち込まれている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活リズムを把握し、健康で安全な生活が出来るように努めている。心身状態など日誌や申し送りにて職員全体が把握できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族に思いや意見を聞いたり、定期的にカンファレンスを行い、見直しを行っている。更新時期には本人、家族の思いを聴き、希望に合うようなケアプランを作成している。	
			(外部評価) 面会時や電話等で利用者や家族の意向を確認しながら、計画作成担当者が介護計画を作成している。「ゆくゆくは家に帰りたいので歩けなくならないように」という家族からの要望を受けて計画を立て、目標に向かっていく例もある。3か月毎にモニタリングをして介護計画を見直しているが、状態に変化があった時はその都度話し合って現状に即した計画になるよう見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランに添って、個別記録にて毎日の生活の様子、健康状態を記録し、職員間での情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて通院、リハビリ、マッサージ、散髪や送迎など柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) サロン交流では、おやつ作り、食事作りを一緒にしたり、お話をし意見交換を楽しまれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医があり、毎月往診を受けたり、受診している。 家族の希望する病院への受診や、家族や協力医療機関と相談 をし専門医院を受診している。	
			(外部評価) 今までのかかりつけ医に継続して通院できるよう支援してい るが、利用者や家族の希望で協力医へ変更する場合もある。 受診の際は職員が同行し、家族に報告をするなどして情報を 共有している。協力医の往診が月に1回、健康管理のため週 に1回看護師の訪問がある。協力医とは24時間体制の医療 連携が取れており、利用者や家族の希望に沿った医療支援が されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師より毎週健康チェックを受け、必要な 注射、血糖測定、点滴を受けている。体調変化（状態）を伝 え、指示を受け対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には病院に情報提供を行っている。面会にも行き、本 人の状態を見て職員に伝えている。退院後、医療機関での情 報提供を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に施設の方針を説明し、同意を得ているが、重度化し た場合は、再度、家族の協力、医師、看護師、職員が連携を 図り、安心して終末期を迎えられるよう話し合いを行い、取 り組んでいる。終末期の指針について職員に説明していき たい。	
			(外部評価) 看取り指針を定め、契約時に説明を行って同意を得るよう にしている。重度化した場合には状況に応じて医師を交えて話 し合い、家族の意向を確認しながら取り組んでいる。最近看 取りを行ったが、「最期は自分たちが看取りたい」という家 族からの意向があり、家族が部屋に寝泊りして介護にあたっ た。職員はできるサポートをして、利用者は穏やかに最期を 迎えた。管理者は職員に「最期だから自分が立ち会いた い」と思うくらいの気持ちで関わってほしいと願っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回、全職員が救命救急法を受講している。緊急時マニュアル、連絡網を作成し、全員が対応できるようにしている。消防署による応急手当研修会にも参加し、身に付けている。AED設置済み。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に防災訓練を実施して、消防署、推進員との訓練を行い、協力体制を築いている。昼夜を問わず施設内の点検を行っている。消火器の点検を行っている。備品、食料品を備蓄している。 (外部評価) 年に2回、消防署立会いのもと夜間想定で防災訓練を行っている。利用者も参加して行っているが、実際には困難が伴うことを実感している。また、事業所は崖崩れの指定区域に入っており、様々な災害に対して職員の意識を高めていこうと努めている。利用者の部屋は、名札の裏に「確認済み」と救出したことがわかるような工夫がされている。訓練には地域住民の参加が難しく、今後も継続して呼びかけていく方針である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の人格を尊重し、声掛けや接し方で利用者のプライドを傷つけないようにする。 (外部評価) トイレ介助を行う際は同性職員で対応したり、入り口のカーテンの閉め忘れがないよう気を付けている。また部屋でオムツ交換を行う際にも戸を閉めるなど、利用者に「大切にされていると感じてもらえるように」配慮している。居室の片付けは利用者のこだわりを大切にしながら行ったり、利用者と一緒にするなど一人ひとりを尊重する姿勢で接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 無理強いせず自己決定出来るよう、一人一人に声かけ、支援している。難聴の方はボードを使用し、意思疎通困難な場合は表情をくみ取って自己決定が出来るよう働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員不足により、職員中心の流れになっているが、一日の流れを利用者のペースに合わせれるように動いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室に行かれ、パーマや毛染めをされている。行かない方はホームで行っている。洋服は、自分で決められる方は決めて頂いている。本人の気に入っている物もあり、おしゃれをされる方もある。出来ない方は身だしなみを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と入居者が同じテーブルを囲んで話をしながら食事をしている。畑で収穫できた野菜を食べたり、誕生日には本人の好きな食事を出している。出前や外食、メニュー作りの時に好きなメニューを聞き決めたり、出来る方は食事準備、片づけを手伝って頂いている。 (外部評価) 職員が献立を作成しているが、利用者からリクエストがある場合には臨機応変に対応している。行事には特別メニューを取り入れ、誕生日には簡単な手作りケーキを用意している。旬の食材を使用することを心がけ、庭で採れたトマト、ピーマン、ナスなども使って調理している。重度化が進み、介助の必要な利用者には時間をずらしてゆっくり食べてもらえるよう工夫をしている。年1回は出前や外食の日を設けており、利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各自の健康状態を考慮して食事量、薄味（減塩）、刻み食、お粥、トロミ（水分）を使い工夫している。一人一人の摂取量（食事、水分）は、記録している。本人の好きな物、嫌いな物、習慣で摂られていたものを配慮し、個別に対応している。午後からの水分補給や入浴後の水分補給をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、本人の能力に応じて介助している。歯間ブラシ、スポンジなど個人に合わせて使用している。週1回ポリドントを使用し義歯パックを洗浄している。歯ブラシ、コップは毎日消毒。夜間時、義歯は外して休んで頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレに排泄を促す事を基本としている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、布パンツ、尿取りなど、本人に合わせて使用している。利用者の行動を読み取り、トイレ誘導したり、一人一人の排泄パターンに応じた誘導をする事により、トイレで排泄出来るよう、支援している。夜間時は、必要に応じてポータブル、トイレ誘導、尿取り交換を行っている。	
			(外部評価) 日中はできるだけトイレで排泄できるよう支援をしている。夜間帯や利用者の状況に合わせ、リハビリパンツやポータブルトイレを使用している。排泄チェック表を記録することで一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。自分でパット交換をする利用者には部屋にフタ付きバケツが用意され、臭気にも配慮されている。各ユニットに2か所トイレがあり、車イスのまま入ることができ、立ち上がりバーが取り付けられ自立支援の工夫がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を活用し、自然排泄が出来るように、乳製品、食物繊維の物を摂ったり、体操、腹部マッサージを行っている。排泄困難な方は主治医に相談しその人に合った対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間帯は決めているが、声掛けや本人の希望にて入浴ができるように支援を行っている。同性介助が必要であれば同性にて対応をしている。	
			(外部評価) 利用者が希望する時に入浴できるが時間帯は午後からとなっている。入浴が苦手な利用者には時間を変更したり、気分のいい日に入ってもらおうようにしたりと無理強いしないよう工夫している。個浴ではあるが元学生寮のため洗い場は広く、介助の必要な場合でもゆとりがある。機械浴も用意されているが現在使用する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 職員不足のため、日中の活動が難しくなっている。夜間時、本人が落ち着ける場所でゆっくり休んでもらい、不眠の時は昼夜逆転にならないように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の薬の処方箋はコピーし、いつでも職員が確認できるようにしている。病状変化があった場合は、主治医に相談し、薬の変更時は日誌に記入をし共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人が出来る事を見つけ、趣味活動を楽しんでもらうように支援している。意思疎通困難な方に対しては、職員から関わりを持ち、コミュニケーションの時間を大切にする。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得て外出される方もある。ドライブ、お花見、外食、買物に行かれている。出来る範囲で行事に参加している。 (外部評価) 事業所は緑に囲まれており、日常的に敷地内を散歩したり外気浴をすることが多い。その際には玄関先の菜園に水やりをしている。裏山の畑では持ち主と挨拶を交わすこともあり、周囲を見て季節を感じることができる。食材の買い出しに利用者と一緒に行ったり、ドライブがてら菖蒲を見に行ったりしている。また家族が買い物に連れて行くこともあり、出来るだけ外に出掛けられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどの方は管理できなくなっているが、管理できる方は自分で小額を所持されている。職員に買物を頼まれたり、買物に行かれ支払される方もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状、暑中見舞いを出すときに、一言書かれる方もいる。出来る方は自分で手紙を書き、ポストへは職員に頼まれる。電話をかけたりされる方もある。番号は職員が押してあげている。携帯電話を使用される方もおられる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 食堂内の壁には季節に応じた飾付けや写真や日めくりを飾り、季節が分かるようにしている。その時期に咲いている花や観葉植物を飾ったり、金魚を飼育している。場所が分かるように大きな字で表示をしている。 (外部評価) リビングには大きなテーブルやソファが置かれ、利用者はそれぞれ思い思いの席でくつろいでいる。廊下には汚れたら交換できるジョイントマットが敷かれている。廊下ソファでくつろぐ利用者には暖房が用意され温度調節されている。玄関には金魚鉢が置かれており、職員がすくった金魚が泳ぎ、利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、玄関先、いろいろな場所に椅子、ソファを置いている。食堂内は少し狭いが、皆が座れるようにソファを置いており、お話しできるように配慮している。建物の構造上の問題もある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には馴染みの家具を持ちこまれている方もある。家族の写真や造花を飾られたり、自分の作品を飾られている。 (外部評価) 元学生寮の4人部屋ということもあり居室は広い。全室日当たりのよい設計となっているため、利用者は明るい部屋で過ごすことができている。和ダンスや家具調こたつ、テレビなど馴染みの品々が持ち込まれ個性のある部屋になっている。管理者も自宅での暮らしの再現をしてほしいと願っている。利用者は体調によってリビングに出たり、部屋で過ごししたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各自に応じて、老人車、杖、車椅子、歩行器を使用されている。身体状況に応じて、居室の移動やベッドの向き、ポータの設置場所を考えている。転倒防止のため、2階への移動はエレベータを使用されている。自力で移動できるよう、手すりを設置している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600027
法人名	株式会社フォースコーポレーション
事業所名	グループホームゆうなぎ
所在地	愛媛県喜多郡内子町城廻613-1番地
自己評価作成日	平成27年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 10 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくりと過ごせる時間を大切にしています。 主治医、看護師との連携を図り、健康管理面には十分配慮しております。 サロンとの交流や保育所との交流ができるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は元学生寮を改修して使用しており、外壁は桜色に塗り替えられ明るい雰囲気である。居室は全室南向きで明るく広々としている。職員は利用者一人ひとりに寄り添い、ゆっくりと話を聞くよう努めており利用者を尊重したケアが行われている。職員全員が同じ目標を持ち、チームワークを大切にしながら利用者により良いケアを提供したいと考え、実践している。事業所での看取りを希望する家族が増え、要望に応えるため協力医と24時間医療体制を整え積極的に取り組もうとしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ゆうなぎ

(ユニット名) 北棟

記入者(管理者)

氏 名 平谷 稔

評価完了日 平成 27年 9月 9日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は目につくところに掲示をしている。再確認をしながら実践をしている。	
			(外部評価) 昨年管理者の交代があったのを期に、開設して7年で理念の見直しを行った。職員全員にアンケートを取ったが、内容的に同じであったため開設以来の理念「笑顔でおだやかなくらし」を継承することにした。初心にもどり、利用者のペースに合わせて話しに耳を傾けることを大切にして、実践につなげている。また職員は個人目標を掲げ、サービスの質の向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事は出来るだけ参加をしている。サロン交流、保育所の交流やボランティアとの交流を行っている。	
			(外部評価) 隣にあった保育所が移転したため、園児たちのにぎやかな声を聞けなくなったが、今まで同様に行き来があり、園児たちとのふれ合いは継続できている。秋祭りには玄関先に神輿が来てくれ見ることができた。数年前から企業のサッカーチームがボランティアで外回りの掃除に来てくれたり、職員も地区の掃除に参加したりと地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 町内のグループホームと連携をし、年に1度認知症講演会を行い、講評を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を行い、利用者の状況、現状を報告している。 認知症講演会、ゆうなぎ行事や避難訓練、救命講習会、自己 評価の結果報告を行っている。	
			(外部評価) 家族代表や元家族、役場職員、民生委員、保育園長等の参加 があり、事業所の報告や意見交換がされている。6月には認 知症講演会を開催し、地域住民が多数参加して好評であっ た。開設以来、毎年ゆうなぎ祭りが行われていたが、今回運 営推進会議で隔年で開催してはどうかと意見が出たため、今 年は見合わせる事となった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 推進会議、内子町グループホーム連絡会に参加して頂いてい る。介護相談員派遣事業にて利用者との話をさせていただい ている。	
			(外部評価) 町担当者は運営推進会議に参加して、事業所の状況を把握し たり、介護保険改正について丁寧な説明をしてくれている。 内子町グループホーム連絡会にも毎回参加して情報交換がで きており、介護保険更新時や新規の介護計画提出時において も連携が取れている。また、地域包括支援センターには利用 料負担の相談をするなど協力関係を築いている。半年に1回 介護相談員の訪問があり、利用者の話しや表情をしっかり見 てもらえている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者の方が自由に生活できるよう環境を整えている。新人 スタッフが多いため、職員会、カンファレンス等で話し合 いをし、勉強会を今後も行っていきたい。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて職員会において注意喚起し、 意識づけを行っている。入所当初毎日「帰りたい」と玄関ま で行っていた利用者も、職員と一緒に歩き気長く穏やかに接 することで、現在は落ち着いて過ごすことができている。言 葉の拘束にも注意をはらい、利用者の尊厳を大切にしてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入居者に対しての言葉遣いや接し方について話し合いを行っている。小さな内出血、アザなど、ヒヤリハットを提出し、カンファレンス等にて全員で話し合いをし改善につなげている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 新人スタッフが増えたため、再度勉強をしていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が、契約時には契約書の説明を行っている。利用者、家族の思いを聴いたうえ、事業所のケアに関する事、利用料金、起こりうるリスク、看取りに関する事、医療連携体制についても説明を行い、同意を得ている。 今後、職員も説明ができるようにしていきたい。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会や家族との交流がある時に意見・要望を聴いている。 (外部評価) 面会時に利用者の状況を職員が伝えて会話する機会を持ち意見を聞くよう努めている。毎月、事業所便りを送付し生活状況を知らせることで、遠方の家族からは感謝の言葉が返ってくることがある。「自分たちでは看れないので有難い。」と思う反面、認知症が進んでいくことについて、家族が受容できないという心境を打ち明けられることもある。家族の辛い心理を理解しながら、利用者はもちろん家族のフォローも大切な支援と考えている。また、年に1回家族会を行い、家族から意見を聞く場を設けてサービスの向上につなげている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 主任、管理者が話を聞き、代表者に伝えている。改善できるところはいただいているが、要望が反映されていないこともある。 (外部評価) 職員会議やユニット毎の会議が毎月行われている。代表も週に1回は事業所を訪れ、職員と意見交換している。また管理者と職員は気軽に話しができる関係で意見や提案がよく出ている。職員の意見で玄関先にジュースの自販機を設置し、隣接する施設の利用者や神社を訪れる住民が通りすがりに利用して挨拶を交わすようになった。事業所は元学生寮であったため広く、現在ナースコールの受信機が1か所にしかなく不便であるため、各階に取り付けてほしいという意見が出て検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者の訪問はあるが、話す機会があまりない。現場の状況や職員の努力等把握できていない。人員の余裕がないため、希望休や時間外の支給はあるが、有給や休憩は十分に取れていない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 皆が研修会に参加出来るよう努力はしているが、人員が少なく余裕がない為、十分研修会に参加できていない。資格取得のための支援をしている。今後、レベルに合わせた勉強会を行いたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者は同業者とのネットワークはあると思うが、職員は同業者と係る機会がほとんど無い。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、自宅、病院等に事前調査に行き、面接を行っている。本人の生活状況、身体状況、服薬、家族関係などを聴きとり、出来る範囲で情報を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にはアセスメントを渡し、記入できる所はご家族にし て頂いている。記入できないご家族には、聞き取りを行い、 家族の要望を聴き、職員にも情報を伝え、事前に話し合っ ている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人、家族の思いを十分に聴き、居宅のケアマネからの情報 提供頂き、必要なサービスに繋げている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 話を聞こうとしているが、仕事優先になってしまう時もあり、 利用者のペース・状態に合わせ、出来る事、好きなこ と、馴染みの生活等を把握しながら関わりを持つようにして いきたい。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、居室や別室でゆっくりお話しできるようにしたり、 行事への呼びかけ、本人の状況を伝えたり、介護記録を 見て頂いている。毎月お便りを書き、状況をお伝えしてい る。受診時には結果を報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 親戚、知人の面会や電話など、自由に出来るようにしてい る。馴染みの美容室に行かれたり、家族との外出、自宅に帰 り過ごされる方もいらっしゃる。 (外部評価) 利用者は移転した保育園の誕生会に毎月招かれて、園児と一 緒に祝ってもらい喜びを感じている。知人の面会が頻回にあ る利用者や、行きつけの美容室に行く利用者もいる。家族の 協力のもと定期的に外泊する利用者もいる。併設のデイサー ビスからレクリエーションの誘いがあり新たな馴染みの関係 もできている。保育園跡に障害者支援施設が入ったため、交 流を持ちたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の顔なじみの関係は出来ており、助け合いながら仲良く自由に過ごされている。個人の性格を考慮し、気の合う利用者同士で過ごせる場面作りをし、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談があれば家族に連絡している。推進委員の協力をお願いし、継続して参加して頂ける方もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃のケアの中で本人の思いを知ろうとしている。意思疎通困難な場合は、家族の意見を取り入れている。センター方式の「私の姿と気持ちシート」を利用し、本人の思い、不安、苦痛、願い事をききとりを行っている。 (外部評価) センター方式を活用して利用者を理解するよう努めているが十分ではなく、日常生活の中で会話を多く持つようにして利用者の思いや意向を聞くよう努めている。会話が難しい利用者には筆談でコミュニケーションを図ったり、表情などを見逃さないように利用者に寄り添ってケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に本人の思いや生活状況を家族に聴いたり、ケアマネより情報収集している。生活の流れをそのまま支援できるように取り組む努力をしている。自分の今までの馴染みの物は自由に持ち込まれている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活リズムを把握し、健康で安全な生活が出来るように努めている。心身状態など日誌や申し送りにて職員全体が把握できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族に思いや意見を聞いたり、定期的にカンファレンスを行い、見直しを行っている。更新時期には本人、家族の思いを聴き、希望に合うようなケアプランを作成している。	
			(外部評価) 面会時や電話等で利用者や家族の意向を確認しながら、計画作成担当者が介護計画を作成している。「ゆくゆくは家に帰りたいので歩けなくならないように」という家族からの要望を受けて計画を立て、目標に向かっていく例もある。3か月毎にモニタリングをして介護計画を見直しているが、状態に変化があった時はその都度話し合って現状に即した計画になるよう見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランに添って、個別記録にて毎日の生活の様子、健康状態を記録し、職員間での情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて通院、リハビリ、マッサージ、散髪や送迎など柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) サロン交流では、おやつ作り、食事作りを一緒にしたり、お話をし意見交換を楽しんでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医があり、毎月往診を受けたり、受診している。 家族の希望する病院への受診や、家族や協力医療機関と相談 をし専門医院を受診している。	
			(外部評価) 今までのかかりつけ医に継続して通院できるよう支援してい るが、利用者や家族の希望で協力医へ変更する場合もある。 受診の際は職員が同行し、家族に報告をするなどして情報を 共有している。協力医の往診が月に1回、健康管理のため週 に1回看護師の訪問がある。協力医とは24時間体制の医療 連携が取れており、利用者や家族の希望に沿った医療支援が されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師より毎週健康チェックを受け、必要な 注射、血糖測定、点滴を受けている。体調変化（状態）を伝 え、指示を受け対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には病院に情報提供を行っている。面会にも行き、本 人の状態を見て職員に伝えている。退院後、医療機関での情 報提供を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に施設の方針を説明し、同意を得ているが、重度化し た場合は、再度、家族の協力、医師、看護師、職員が連携を 図り、安心して終末期を迎えられるよう話し合いを行い、取 り組んでいる。終末期の指針について職員に説明していき たい。	
			(外部評価) 看取り指針を定め、契約時に説明を行って同意を得るよう にしている。重度化した場合には状況に応じて医師を交えて話 し合い、家族の意向を確認しながら取り組んでいる。最近看 取りを行ったが、「最期は自分たちが看取りたい」という家 族からの意向があり、家族が部屋に寝泊りして介護にあたっ た。職員はできるサポートをして、利用者は穏やかに最期を 迎えた。管理者は職員に「最期だから自分が立ち会いた い」と思うくらいの気持ちで関わってほしいと願っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回、全職員が救命救急法を受講している。緊急時マニュアル、連絡網を作成し、全員が対応できるようにしている。消防署による応急手当研修会にも参加し、身に付けている。AED設置済み。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に防災訓練を実施して、消防署、推進員との訓練を行い、協力体制を築いている。昼夜を問わず施設内の点検を行っている。消火器の点検を行っている。備品、食料品を備蓄している。 (外部評価) 年に2回、消防署立会いのもと夜間想定で防災訓練を行っている。利用者も参加して行っているが、実際には困難が伴うことを実感している。また、事業所は崖崩れの指定区域に入っており、様々な災害に対して職員の意識を高めていこうと努めている。利用者の部屋は、名札の裏に「確認済み」と救出したことがわかるような工夫がされている。訓練には地域住民の参加が難しく、今後も継続して呼びかけていく方針である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の人格を尊重し、声掛けや接し方で利用者のプライドを傷つけないようにする。 (外部評価) トイレ介助を行う際は同性職員で対応したり、入り口のカーテンの閉め忘れがないよう気を付けている。また部屋でオムツ交換を行う際にも戸を閉めるなど、利用者に「大切にされていると感じてもらえるように」配慮している。居室の片付けは利用者のこだわりを大切にしながら行ったり、利用者と一緒にするなど一人ひとりを尊重する姿勢で接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 無理強いせず自己決定出来るよう、一人一人に声かけ、支援している。難聴の方はボードを使用し、意思疎通困難な場合は表情をくみ取って自己決定が出来るよう働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員不足により、職員中心の流れになっているが、一日の流れを利用者のペースに合わせれるように動いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室に行かれ、パーマや毛染めをされている。行かれない方はホームで行っている。洋服は、自分で決められる方は決めて頂いている。本人の気に入っている物もあり、おしゃれをされる方もある。出来ない方は身だしなみを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と入居者が同じテーブルを囲んで話をしながら食事をしている。畑で収穫できた野菜を食べたり、誕生日には本人の好きな食事を出している。出前や外食、メニュー作りの時に好きなメニューを聞き決めたり、出来る方は食事準備、片づけを手伝って頂いている。 (外部評価) 職員が献立を作成しているが、利用者からリクエストがある場合には臨機応変に対応している。行事には特別メニューを取り入れ、誕生日には簡単な手作りケーキを用意している。旬の食材を使用することを心がけ、庭で採れたトマト、ピーマン、ナスなども使って調理している。重度化が進み、介助の必要な利用者には時間をずらしてゆっくり食べてもらえるよう工夫をしている。年1回は出前や外食の日を設けており、利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各自の健康状態を考慮して食事量、薄味（減塩）、刻み食、お粥、トロミ（水分）を使い工夫している。一人一人の摂取量（食事、水分）は、記録している。本人の好きな物、嫌いな物、習慣で摂られていたものを配慮し、個別に対応している。午後からの水分補給や入浴後の水分補給をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、本人の能力に応じて介助している。歯間ブラシ、スポンジなど個人に合わせて使用している。週1回ポリドントを使用し義歯パックを洗浄している。歯ブラシ、コップは毎日消毒。夜間時、義歯は外して休んで頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレに排泄を促す事を基本としている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、布パンツ、尿取りなど、本人に合わせて使用している。利用者の行動を読み取り、トイレ誘導したり、一人一人の排泄パターンに応じた誘導をする事により、トイレで排泄出来るよう、支援している。夜間時は、必要に応じてポータブル、トイレ誘導、尿取り交換を行っている。 (外部評価) 日中はできるだけトイレで排泄できるよう支援をしている。夜間帯や利用者の状況に合わせ、リハビリパンツやポータブルトイレを使用している。排泄チェック表を記録することで一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。自分でパット交換をする利用者には部屋にフタ付きバケツが用意され、臭気にも配慮されている。各ユニットに2か所トイレがあり、車イスのまま入ることができ、立ち上がりバーが取り付けられ自立支援の工夫がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を活用し、自然排泄が出来るように、乳製品、食物繊維の物を摂ったり、体操、腹部マッサージを行っている。排泄困難な方は主治医に相談しその人に合った対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間帯は決めているが、声掛けや本人の希望にて入浴ができるように支援を行っている。同性介助が必要であれば同性にて対応をしている。 (外部評価) 利用者が希望する時に入浴できるが時間帯は午後からとなっている。入浴が苦手な利用者には時間を変更したり、気分のいい日に入ってもらいようにしたりと無理強いしないよう工夫している。個浴ではあるが元学生寮のため洗い場は広く、介助が必要な場合でもゆとりがある。機械浴も用意されているが現在使用する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 職員不足のため、日中の活動が難しくなっている。夜間時、本人が落ち着けつる場所でゆっくり休んでもらい、不眠の時は昼夜逆転にならないように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の薬の処方箋はコピーし、いつでも職員が確認できるようにしている。病状変化があった場合は、主治医に相談し、薬の変更時は日誌に記入をし共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人が出来る事を見つけ、趣味活動を楽しんでもらうように支援している。意思疎通困難な方に対しては、職員から関わりを持ち、コミュニケーションの時間を大切にする。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得て外出される方もある。ドライブ、お花見、外食、買物に行かれている。出来る範囲で行事に参加している。 (外部評価) 事業所は緑に囲まれており、日常的に敷地内を散歩したり外気浴をすることが多い。その際には玄関先の菜園に水やりをしている。裏山の畑では持ち主と挨拶を交わすこともあり、周囲を見て季節を感じることができる。食材の買い出しに利用者と一緒に行ったり、ドライブがてら菖蒲を見に行ったりしている。また家族が買い物に連れて行くこともあり、出来るだけ外に出掛けられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどの方は管理できなくなっているが、管理できる方は自分で小額を所持されている。職員に買物を頼まれたり、買物に行かれ支払される方もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状、暑中見舞いを出すときに、一言書かれる方もいる。出来る方は自分で手紙を書き、ポストへは職員に頼まれる。電話をかけたりされる方もある。番号は職員が押してあげている。携帯電話を使用される方もおられる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 食堂内の壁には季節に応じた飾付けや写真や日めくりを飾り、季節が分かるようにしている。その時期に咲いている花や観葉植物を飾ったり、金魚を飼育している。場所が分かるように大きな字で表示をしている。 (外部評価) リビングには大きなテーブルやソファが置かれ、利用者はそれぞれ思い思いの席でくつろいでいる。廊下には汚れたら交換できるジョイントマットが敷かれている。廊下ソファでくつろぐ利用者には暖房が用意され温度調節されている。玄関には金魚鉢が置かれており、職員がすくった金魚が泳ぎ、利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、玄関先、いろいろな場所に椅子、ソファを置いている。食堂内は少し狭いが、皆が座れるようにソファを置いており、お話しできるように配慮している。建物の構造上の問題もある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には馴染みの家具を持ちこまれている方もある。家族の写真や造花を飾られたり、自分の作品を飾られている。 (外部評価) 元学生寮の4人部屋ということもあり居室は広い。全室日当たりのよい設計となっているため、利用者は明るい部屋で過ごすことができている。和ダンスや家具調こたつ、テレビなど馴染みの品々が持ち込まれ個性のある部屋になっている。管理者も自宅での暮らしの再現をしてほしいと願っている。利用者は体調によってリビングに出たり、部屋で過ごししたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各自に応じて、老人車、杖、車椅子、歩行器を使用されている。身体状況に応じて、居室の移動やベッドの向き、ポータの設置場所を考えている。転倒防止のため、2階への移動はエレベータを使用されている。自力で移動できるよう、手すりを設置している。	